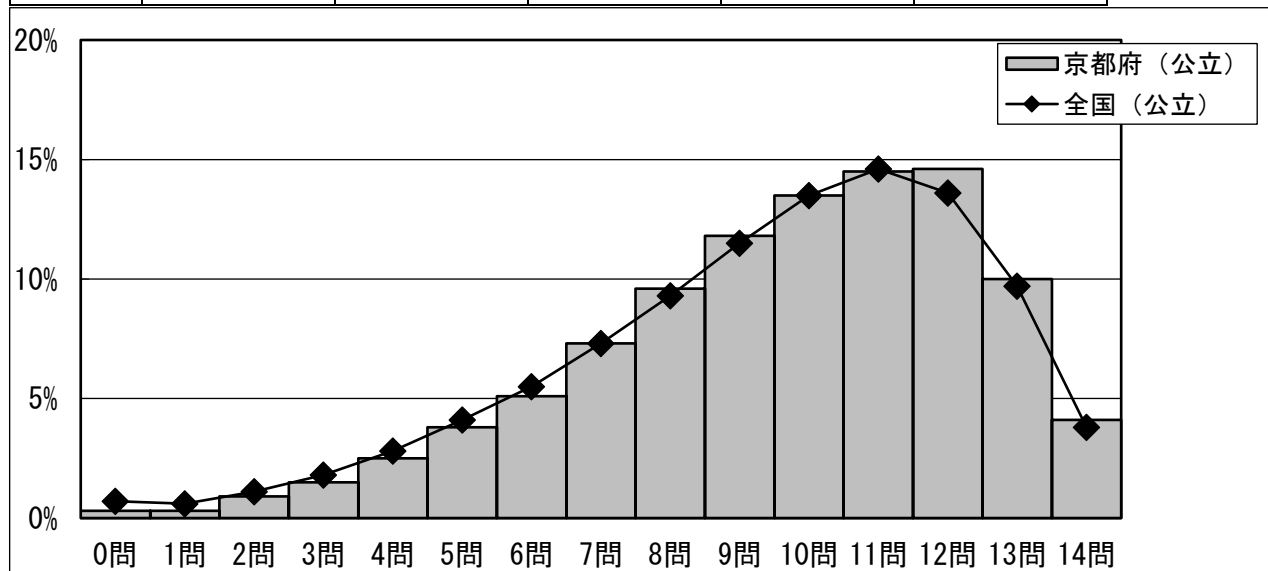


Ⅱ 京都府における国語の状況と改善のポイント

*すべて京都市を除く京都府のデータです

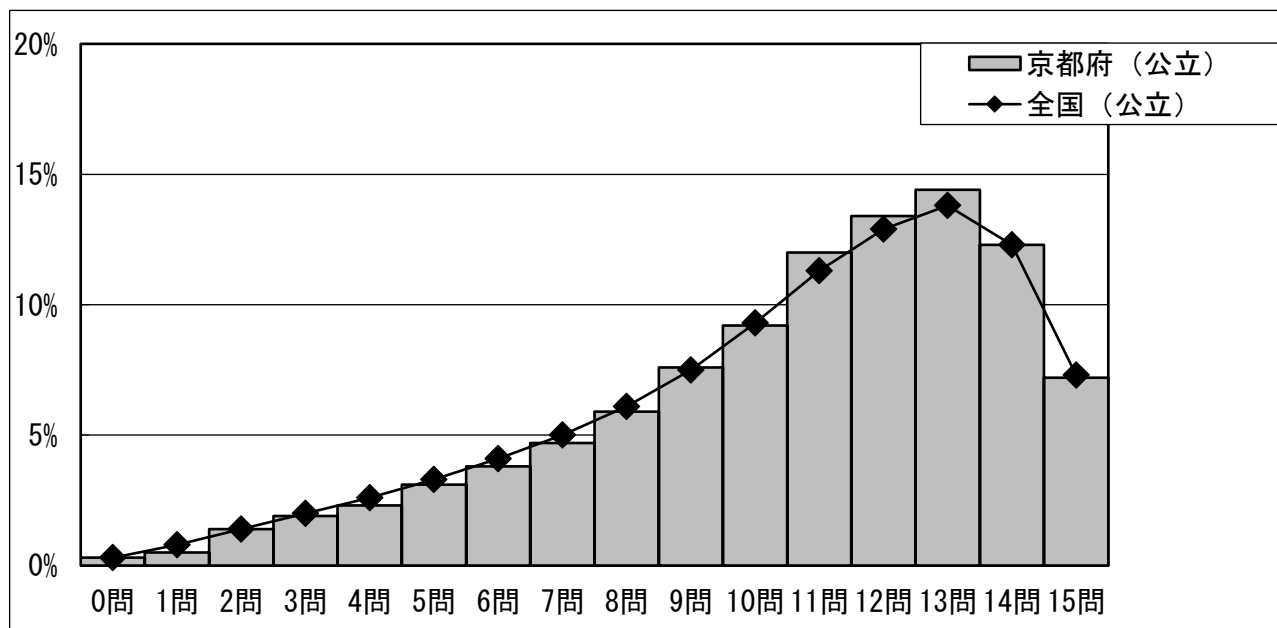
1 小学校国語の概要

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
京都府	9,177	9.6 / 14	68	10.0	2.8
全国	964,177	9.4 / 14	67.2	10.0	2.9



2 中学校国語の概要

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
京都府	8,898	10.6 / 15	70	11.0	3.3
全国	892,738	10.5 / 15	69.8	11.0	3.4



3 設問別調査結果 [国語]

小学校 [国語]

京都市を除く京都府一児童（公立）

集計結果

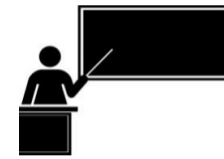
	児童数	学校数	平均正答率
京都府（公立）	9,177	199	68
全国（公立）	964,177	18,618	67.2

分類・区分別集計結果

分類	区分	平均正答率(%)		
		京都府	全国	
学習指導要領の領域等	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	73.0	71.2
		(2) 情報の扱い方に関する事項	63.2	63.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項		
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	75.2	72.6
B 書くこと		26.4	26.7	
C 読むこと		71.6	71.2	
評価の観点	知識・技能	70.2	68.9	
	思考・判断・表現	66.7	65.5	
	主体的に学習に取り組む態度			
問題形式	選択式	74.8	73.6	
	短答式	63.7	62.7	
	記述式	52.5	51.1	

◇正答率が全国平均を上回っている、もしくは同率の設問が10問ある。そのいずれも正答率6割を超えている。無解答率も、全ての問題において全国平均を下回っている。

◆正答率が全国平均を下回った設問が4問あり、そのうち6割を下回った設問が2問ある。伝えたいことを明確にし、分かりやすく伝えるためには、どのような図表やグラフなどを用いるとよいのかを考えられるようにすることが必要である。



設問別集計結果

設問番号	問題の概要	領域等	正答率		無解答率	
			府(※)	全国	府	全国
1一	米作りのときに記録していた【カード②】と【カード③】の下線部の関係として適切なものを選択する	情報の扱い方に関する事項	64.7	64.7	1.2	1.8
1二	【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く	書くこと	26.4	26.7	5.5	7.1
1三 (1) ア	【川村さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す(いがい)	言葉の特徴や使い方に関する事項	52.6	52.8	3.5	4.8
1三 (1) ウ	【川村さんの文章】の下線部ウを、漢字を使って書き直す(きかん)	言葉の特徴や使い方に関する事項	74.9	72.6	4.2	6.7
1三 (2) イ	【川村さんの文章】の下線部イを、送り仮名に気を付けて書き直したものとして適切なものを選択する(くらべて)	言葉の特徴や使い方に関する事項	94.3	93.1	0.6	1.0
1四	【川村さんの文章】の特徴の説明として適切なものを選択する	言葉の特徴や使い方に関する事項	80.4	79.8	1.4	2.0
2一	【資料1】と【資料2】に書かれている内容として適切なものを選択する	読むこと	91.0	90.0	0.7	1.2
2二	【相田さんのメモ】の空欄に当てはまる内容として適切なものを選択する	読むこと	66.9	67.4	0.8	1.4
2三	相田さんが【資料3】の情報をどのように整理しているかについて説明したものとして適切なものを選択する	情報の扱い方に関する事項	61.8	62.0	0.9	1.6
2四	資料を読み、運動と食事の両方について分かったことをもとに、自分ができそうなことをまとめて書く	読むこと	56.9	56.2	6.0	8.5
3一 (1)	【インタビューの様子】の傍線部ア(～ということだと思いますが、合っていますか。)のように質問をした理由として適切なものを選択する	話すこと・聞くこと	75.9	73.6	2.5	3.7
3一 (2)	【インタビューの様子】の傍線部イ(～というのはどのような姿ですか。)のように質問をした理由として適切なものを選択する	話すこと・聞くこと	75.7	74.0	2.8	4.1
3二	寺田さんと山本さんが、どのような思いでボランティアを続けているのかについて、分かったことをまとめて書く	話すこと・聞くこと	74.1	70.2	10.2	14.3
3三	敬語の使い方をまとめた【谷さんのノートの一部】の空欄に入る内容として適切なものを選択する	我が国の言語文化に関する事項	63.0	57.6	7.6	9.5

※府(京都市を除く)の正答率が全国の正答率より低い問題についてはセルの色を で、正答率が60%未満の問題についてはセルの色を で、表示しています。

4 設問別調査結果 [国語]

中学校 [国語]

京都市を除く京都府一生徒（公立）

集計結果

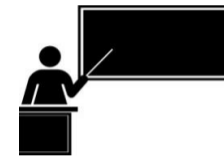
	生徒数	学校数	平均正答率
京都府（公立）	8,898	98	70
全国（公立）	892,738	9,336	69.0

分類・区別集計結果

分類	区分	平均正答率(%)		
		京都府	全国	
学習指導要領の領域等	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	66.5	67.5
		(2) 情報の扱い方に関する事項	64.4	63.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	74.4	74.7
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	82.8	82.2
B 書くこと		64.7	63.2	
C 読むこと		65.6	63.7	
評価の観点	知識・技能	69.3	69.4	
	思考・判断・表現	71.1	69.7	
	主体的に学習に取り組む態度			
問題形式	選択式	73.4	73.1	
	短答式	65.2	65.6	
	記述式	70.4	68.0	

◇正答率が全国平均を上回っている設問が7問ある。そのいずれもが正答率6割を超えている。無解答率は、一問を除いた14問において全国平均を下回っている、もしくは同率である。

◆正答率が全国平均を下回った設問が6問あり、そのうち6割を下回った設問が1問ある。漢字の書きについては、文章の中ばかりではなく、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の学習の中や、他教科等の学習の中で使い慣れる必要がある。



設問別集計結果

設問番号	問題の概要	領域等	正答率		無解答率	
			府(※)	全国	府	全国
1一	インタビューの前に準備したメモについて説明したものとして適切なものを選択する	話すこと・聞くこと	88.3	87.5	0.1	0.1
1二	インターネットの記事を読んで気付いた点として適切なものを選択する	情報の扱い方に関する事項 書くこと	64.8	65.1	0.1	0.2
1三	相手の話を受けて発した質問について、述べ方の工夫とその意図を説明したものとして適切なものを選択する	話すこと・聞くこと	75.7	76.6	0.2	0.2
1四	インタビューのまとめとしてどのようなことを述べるのか、自分の考えを書く	話すこと・聞くこと	84.5	82.5	8.1	10.8
2一	「落胆する」の意味として適切なものを選択する	言葉の特徴や使い方に関する事項	90.7	91.1	0.2	0.2
2二	二つの文章に共通する表現の効果を説明したものとして適切なものを選択する	読むこと	63.8	63.0	0.5	0.4
2三	それぞれの文章で述べられている「読書の楽しみ」として適切なものを選択する	読むこと	75.9	74.2	0.3	0.3
2四	自分がこれからどのように本を読みたいかについて、読んだ文章を参考にして、知識や経験に触れながら書く	読むこと 我が国の言語文化に関する事項	68.9	67.5	2.8	3.9
3一	レポートの下書きの一部について、文の一部を直す意図として適切なものを選択する	書くこと	54.6	54.3	0.4	0.6
3二	漢字を書く（おし量って）	言葉の特徴や使い方に関する事項	42.3	43.9	9.7	10.7
3三	「『判じ絵』とは何か」と見出しを付けた部分について、内容のまとまりで文章が二つに分かれる箇所を選択し、後半のまとまりに付ける見出しを書く	情報の扱い方に関する事項	64.1	61.8	1.3	2.1
3四	「『判じ絵』の解説の面白さ」と見出しを付けた部分に具体例として示す「判じ絵」を選択し、その解説の仕方を書く	我が国の言語文化に関する事項	74.8	72.1	7.9	10.2
4一	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す（いひける）	書くこと	81.7	82.5	2.8	3.6
4二	原文の中の語句に対応する言葉を現代語で書かれた文章から抜き出す（いと）	我が国の言語文化に関する事項	72.5	74.1	3.9	4.8
4三	現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く	我が国の言語文化に関する事項	53.7	50.0	15.9	20.7

※府(京都市を除く)の正答率が全国の正答率より低い問題についてはセルの色を で、正答率が60%未満の問題についてはセルの色を で、表示しています。

5 小学校国語科の授業改善のポイント

小学校 言葉の特徴や使い方に関する事項 情報の扱い方に関する事項

問題〔1ー・三(1)ア・
三(1)ウ・三(2)イ・四〕
〔2三〕〔3三〕

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

◎原因と結果など情報と情報との関係について理解している

〔1ー〕(府の正答率 64.7%、全国の正答率 64.7%)

▲学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる(いがい)

〔1三(1)ア〕(府の正答率 52.6%、全国の正答率 52.8%)

◎学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる(きかん)

〔1三(1)ウ〕(府の正答率 74.9%、全国の正答率 72.6%)

◎送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使う(くらべて)

〔1三(2)イ〕(府の正答率 94.3%、全国の正答率 93.1%)

◎文章の種類とその特徴について理解している

〔1四〕(府の正答率 80.4%、全国の正答率 79.8%)

▲情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる

〔2三〕(府の正答率 61.8%、全国の正答率 62.0%)

○日常よく使われる敬語を理解している

〔3三〕(府の正答率 63.0%、全国の正答率 57.6%)

解説

- ・〔1三(1)ア〕について、「意外」を「以外」と解答するように、同音異義語に注意して書くことに課題が見られた。漢字のもつ意味を考えて使う習慣が身に付くようにすることが大切である。
- ・〔2三〕について、語句と語句を線でつなぐなどの表し方は理解していても、語句の意味や、語句と語句との関係を理解していないという課題が見られた。必要に応じて、情報の整理の仕方について、一斉に指導を行うことや、「読むこと」の指導事項との関連を図り、指導の効果を高めることが大切である。

<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「令和5年度全国学力・学習状況調査解説資料 小学校 国語」

URL : [23plang_idea_02_k.pdf\(nier.go.jp\)](https://www.nier.go.jp/23plang_idea_02_k.pdf)

◎ 情報の整理の仕方について交流する指導事例が紹介されている。

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

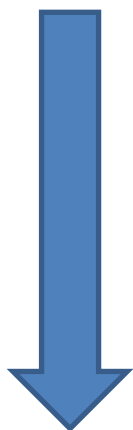
○必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができる

〔3-(1)〕(府の正答率 75.9%、全国の正答率 73.6%)

〔3-(2)〕(府の正答率 75.7%、全国の正答率 74.0%)

○目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる

〔3二〕(府の正答率 74.1%、全国の正答率 70.2%)



解説

- ・「話すこと・聞くこと」の領域の平均正答率は全国平均を上回っている。
 - ・話を聞いて自分の考えをまとめる際には、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、共通点や相違点を整理したり、共感した内容や納得した事例を取り上げたりして、自分の考えをまとめることが大切である。
- また、必要なことを質問しながら聞くことや、適切な敬語の使い方について理解できるように指導することが、引き続き必要である。

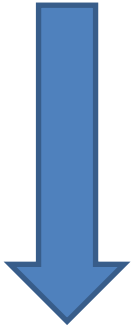
<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例」(令和5年度)

URL : [23plang_idea_03_k.pdf \(nier.go.jp\)](https://www.nier.go.jp/23plang_idea_03_k.pdf)

- ◎ 一人一人が考える場面と、グループで話し合う場面を行き来しながら指導し、話す内容を捉え、自分の考えを広げたりまとめたりする指導事例が、学習の流れに沿って紹介されている。インタビューをする際は、聞く目的を意識し、自分の目的に沿って、更に深めたり確かめたりする必要がある。中学年では、記録や質問をしながら自分の聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつこと、高学年では、話を聞きながら、自分の考えと比べて共通点や相違点を整理したり、共感した内容や納得した事例を取り上げたりして、自分の考えをまとめていくことができるようにすることが大切である。

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

▲図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる〔1 2〕（府の正答率 26.4%、全国の正答率 26.7%）



解説

・「書くこと」の領域の平均正答率は全国平均とほぼ同率である。〔1 2〕については、条件①の二つの内容のどちらかしか取り上げていなかったという児童が 28.9%おり、正答の 26.9%を上回った。伝えたいことを明確にし、分かりやすく伝えるためには、どのような図表やグラフなどを用いるとよいかを、児童が考えられるようにすることが大切である。

<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例」(令和5年度)

URL : [23plang_idea_01_k.pdf \(nier.go.jp\)](https://www.nier.go.jp/23plang_idea_01_k.pdf)

- ◎ 図表やグラフなどを用いるなどして書き表し方を工夫する指導事例が紹介されている。なお、引用した図表やグラフの出典については必ず明記するとともに、引用部分が適切な量になるようにすることが必要である。図表を用いる場合には、本文に「図1は、～」「表1は、～」といった表現を用いて本文との関連を示すことを指導することも考えられる。

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎)と課題(▲)

◎目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる

〔2一〕(府の正答率 91.1%、全国の正答率 90.0%)

○目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができる

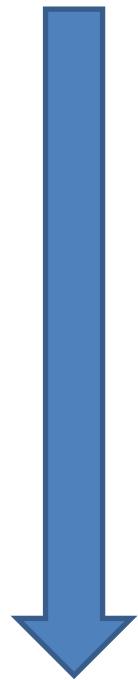
〔2二〕(府の正答率 66.9%、全国の正答率 67.4%)

▲文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる

〔2四〕(府の正答率 56.9%、全国の正答率 56.2%)

解説

- ・「読むこと」の領域の平均正答率は全国平均とほぼ同率である。
- ・〔2二〕では、「4」と解答している児童の割合が21.0%と高かった。【資料2】だけを読んで判断し、【資料1】と【資料2】を結び付けて必要な情報を見付けることができなかつたと考えられる。読む目的に応じて、複数の資料を読みながら、必要な情報を見付け、その関係を考えられるようにすることが大切である。
- ・〔2四〕では、解答類型4と解答類型5の反応率の合計が23.9%と高かった。【資料1】【資料2】【資料3】を読み、運動と食事の両方について分かったことと、分かったことを基にこれから自分ができそうなことについて考えをまとめることが求められる。学習指導に当たっては、複数の本や資料を読んで分かったことを整理したり、分かったことの中から既存の知識や体験などに結び付くものを考えたりしながら自分の考えをまとめるようにすることが大切である。



<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例」(令和5年度)

URL : [23plang_idea_02_k.pdf \(nier.go.jp\)](https://nier.go.jp/23plang_idea_02_k.pdf)

- ◎ 「C読むこと」の「考えの形成」に関する指導事項を重点的に取り上げ、定着を図る単元について紹介されている。
- ①文章を読んで理解したことと既存の知識や体験などを結び付けて考えていることを認め、価値付けること
 - ②理解したことと既存の知識や体験などを結び付けて考えることが難しい児童には、着目した語句を確かめたり、その語句に着目した理由を問いかけたりして自分の考えを表現できるように指導すること
 - ③考えをまとめることが難しい児童には、「だから」、「～ので」など情報と情報との関係を表す語句を例示するなど、「言葉の特徴や使い方に関する事項」と関連させて、考えをまとめることができるように指導すること
- について示されている。

6 中学校国語科の授業改善のポイント

中学校 言葉の特徴や使い方に関する事項
情報の扱い方に関する事項
我が国の言語文化に関する事項

問題〔1二〕〔2一・四〕
〔3二・三〕〔4一・二〕

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

- 意見と根拠など情報と情報との関係について理解している
〔1二〕(府の正答率 64.7%、全国の正答率 65.1%)
- ◎事象や行為、心情を表す語句について理解している
〔2一〕(府の正答率 91.0%、全国の正答率 91.1%)
- 文書を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる
〔2四〕(府の正答率 68.8%、全国の正答率 67.5%)
- ▲文脈に即して漢字を正しく書くことができる
〔3二〕(府の正答率 42.2%、全国の正答率 43.9%)
- 具体と抽象など情報と情報との関係について理解している
〔3三〕(府の正答率 64.1%、全国の正答率 61.8%)
- ◎歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができる
〔4一〕(府の正答率 81.8%、全国の正答率 82.5%)
- 古典の原文と現代語の文章とを対応させて内容を捉えることができる
〔4二〕(府の正答率 73.6%、全国の正答率 74.1%)



解説

・〔3二〕について、正答率 42.2%と低い。正答「推」に対して、「押」「進」「椎」などの誤答が見られ、その多くが「押」という解答であった。このように解答した生徒は、「押し量る」という言葉になじみがないなど、文脈に即して「おし」の意味を捉えることができず、同じ訓をもつ「押」と書いたものと考えられる。漢字の指導と併せて、語彙を拡充する指導であることの視点も必要である。

<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例」(令和5年度)

URL : [23mlang_idea_04_k.pdf \(nier.go.jp\)](https://www.nier.go.jp/23mlang_idea_04_k.pdf)

◎「現代語」を活用して、古典作品を楽しむ事例が紹介されている。古典の原文の中の言葉が、現代語訳ではどのように表現されているかを確認したり、語感を比較したりすることも、古典に対する興味・関心を喚起することにつながるため、大切な指導の視点である。

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

◎目的や場面に応じて質問する内容を検討することができる

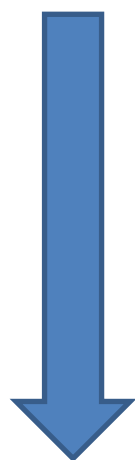
〔1一〕(府の正答率 88.3%、全国の正答率 87.5%)

○話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問することができる

〔1三〕(府の正答率 76.0%、全国の正答率 76.6%)

◎聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることができる

〔1四〕(府の正答率 85.0%、全国の正答率 82.5%)



解説

- ・「話すこと・聞くこと」の領域の平均正答率は全国平均とほぼ同等である。
- ・〔1四〕では、無答率が8.2%と高い。このような問題に答えられるようにするためには、生徒に同様の学習を経験させておくことが必要である。何のために、どのような状況で話を聞いているのかを意識し、必要に応じて重要な情報を書き留めるなど、話の内容を正確に理解できるように指導することが大切である。さらに、聞き取った話の内容を基に、自分の経験や考えとの共通点や相違点、疑問点などを整理し、自分の考えをまとめることができるようにすることも大切である。

<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例」(令和5年度)

URL : [23mlang_idea_01_k.pdf \(nier.go.jp\)](https://www.nier.go.jp/23mlang_idea_01_k.pdf)

◎聞き取ったことを基に効果的に質問し、自分の考えをまとめる事例が紹介されている。質問する際には、話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問することが大切であり、同時に質問の意図が伝わるようにすることも重要であることが示されている。総合的な学習の時間など、他教科の学習と関連させた指導が考えられる。

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

▲読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができる

〔3ー〕(府の正答率 55.5%、全国の正答率 54.3%)

○自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができる

〔3四〕(府の正答率 74.6%、全国の正答率 72.1%)



解説

- ・「書くこと」の領域の平均正答率は全国平均を上回っている。
- ・〔3ー〕について、推敲の場面では例えば、推敲する前と後の文章を比較し、書き換えた理由や意図を説明する学習活動が考えられる。その際、叙述の仕方などを直したことで、伝えようとするものが十分に書き表されているかなどを、読み手の立場に立って確かめることが重要である。書いた文章を推敲する際には、伝えようとするものが伝わるように、読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるように指導することが引き続き大切である。

<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例」(令和5年度)

URL : [23mlang_idea_03_k.pdf \(nier.go.jp\)](https://www.nier.go.jp/23mlang_idea_03_k.pdf)

◎自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にしてレポートを書く単元が紹介されている。

レポートなどを書くときには、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することが大切であり、具体例をどのように示すと自分の考えが伝わる文章になるのかを考える場面について生徒同士の交流場面が具体的に示されている。〔生徒の発言をまとめた板書の例〕に挙げられている三つの留意点を、生徒が自分の表現に生かすように活用に向けた指導が重要である。

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎)と課題(▲)

○観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができる

〔2二〕(府の正答率 64.3%、全国の正答率 63.0%)

○文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、用紙を把握することができる

〔2三〕(府の正答率 75.6%、全国の正答率 74.2%)

○文章を読んで理解したことなどと知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる

〔2三〕(府の正答率 68.8%、全国の正答率 67.5%)

▲文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる

〔4三〕(府の正答率 54.6%、全国の正答率 50.0%)

解説

- ・「読むこと」の領域の平均正答率は全国平均を上回っている。
- ・〔4三〕について、無答率が16.0%と高い。このような問題に答えられるには、古典に親しむ態度の育成の視点が欠かせない。
- ・生徒が古典との距離を縮め、古典の世界に親しむためには、古典の現代語訳や古典について解説した文章などを教材として適切に取り上げ、生徒自身が古典の楽しみ方を見いだすことができるよう指導することが大切である。教科書に掲載されている現代語訳だけでなく、中学生などが楽しめるような現代語訳などを取り上げ、文章の構成や展開、表現の効果などに着目して工夫されているところを考える学習活動などが考えられる。その際、古典の原文と比較したり関係付けたりすることで、古典の原文やその作品の世界に生徒の興味・関心が向かうよう指導することが大切である。

<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例」(令和5年度)

URL : [23mlang_idea_04_k.pdf \(nier.go.jp\)](https://www.nier.go.jp/23mlang_idea_04_k.pdf)

◎現代語訳を活用して古典作品を読む単元について事例が紹介されている。古典の原文に加え、古典の現代語訳や古典について解説した文章などを教材として取り上げることが考えられる。